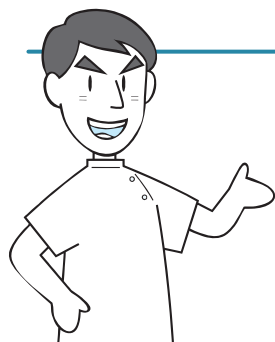


歳を重ねてくると若い頃に比べ、からだの状態が大きく変わってくるため、同じ病気でも症状の出方が違ってきます。たいした症状とは思えなくても、それが大きな前ぶれの場合もあります。からだの調子が悪くても「年のせい」と軽く考えるのではなく、病気には早め早めに対処しましょう。



気をつけて！

認知症

「物事すべて」を忘れるうえ、
忘れたという自覚もなくなる病気です

記憶力・判断力がなくなり、最終的には徘徊などの問題行動を引き起こします。老化による「もの忘れ」と異なる点は、本人に「忘れた」という自覚がなく、社会生活を営めなくなるほどに記憶力をなくしてしまうこと。原因は大きく分けて、次の2つになります。

脳血管障害型：脳卒中により、血液が流れなくなった脳細胞が酸素不足や栄養不足を起こして、脳の機能が低下する。

アルツハイマー型：脳細胞が急速に減少して、脳が縮むことで機能が低下する。

高齢者に多い病気とその対策

いつまでも元気で長生きを

No.3

おたっしや本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、住み慣れた多久市でいつまでも元気で安心して暮らしていけるように高齢者の生活をあらゆる面から応援する総合相談機関です。

生活の中で「困ったなあ」「どうしよう」と思うことがあったら、まずご相談ください。

多久市地域包括支援センター
（多久市役所 福祉課内）

☎ 75-6033

どんな症状が現われるの？

・記憶力の低下、たとえば、「食事をしたこと」「旅行をしたこと」など、物事のすべてを忘れてしまいます。しかも、忘れたという自覚がありません。通常のもの忘れは、固有名詞を忘れる、物の置き場を忘れるなど物事の一部を忘れるに過ぎません。また、忘れたという自覚があります。

・今の季節、日にち、時間、今いる場所などがわからなくなります。

・相手の言葉が理解できなくなったり、言葉を話せなくなったりします。

診療科はどの？

・内科・神経内科・精神科を受診してください。



治療の方法は？

・**脳血管障害型**
薬で一部、症状を軽くしたり、病気の進行を遅らせることができます。

・**アルツハイマー型**
原因が不明で治療法も確立されていませんが、薬で症状を和らげたり、進行を遅らせることができます。場合もあります。

ここに注意

脳血管障害型の場合：脳卒中の発作後は、寝たきりにならないよう、人との活発な交流、新聞やテレビ・読書、日記をつけるなど頭を使い脳に刺激を与えましょう。できる範囲で体を動かすことも有効です。

アルツハイマー型の場合：家族や介護される方は、忘れたことを無理やり思い出させたり、叱ったりしないようにしましょう。お年寄りにストレスを与えることが一番よくありません。